
短歌ごっこ'11.葉月

逸見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短歌ごっこ・11・葉月

【Nコード】

N3495W

【作者名】

逸見

【あらすじ】

日常を詠んでいます

短歌の形式だけど「短歌」と言い切ってしまうのは、なんかおこがましい

そんな訳で短歌ごっこです

l i v e d o o r プ ロ グ “ v o i c e ” で も 公 開 中

忘れても
忘れたくない
いつの日か
忘れ去り行く
ものであるけど

変わりばえ
無き毎日の
ありがたさ
感じて過ぎる
変わらない今日

彷徨す
狭くて広い
この場所を
拙き思い
拙き言葉

長く鳴る
サイレン聞きて
晴れ渡る
青の奥の
遠い空見る

捨て切れず
時折ふつと
顔を出す
いまだ残るや
花れんの想い

この広い
空でつながる
それだけが
唯一無二の
極細の糸

満ち潮と
引き潮のよう
迫り来て
やがて引き行く
大波小波

扇風機
生暖かい
風送る
真夏日終わる
間際の部屋に

黒の中

とりどり浮かぶ
きらめきの
もとにきつと
ある日常

雲の間で
光る黄色い
お月さま
昨日より少し
ぼっちやり顔で

キミ帰り
たった一間の
この部屋が
やたらと広く
なるお盆あと

くすぶると
言うにふさわし
感情よ
燃えカスになれ
風に舞い散れ

二つ目の
季節もうすぐ
終わり行く

競うが如く
虫の音増して

大海に
いまだ届かず
漂いて
ゆっくり流れる
小さき一葉

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3495w/>

短歌ごっこ'11.葉月

2011年10月9日15時55分発行